

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 東京都立杉並総合高校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒168-0073

杉並区下高井戸5-17-1

E-mail Akihiko_Fujino@education.metro.tokyo.jp

Website www.suginamisogo-h.metro.tokyo.jp/

生徒数：男子 203名 女子 504名 合計 707名

児童・生徒の年齢 16歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

杉並総合高校(以下スギソウ)は都立高校が普通にできる国際理解教育を推進し、「市民感覚」の相互理解を深めてきた。また、持続可能な地球社会の発展(ESD)を考え、学校設定科目の「国際ボランティア」なども開設し、ユネスコスクールにも4年前に加盟した。オーストラリアの姉妹校交流の他にも、イタリア、メキシコ、オーストラリア、ノルウェー、デンマークなどからの長期留学生に加え、台湾や韓国からの訪問者や、フランスとの相互交流(コリブリ)やスウェーデンのトンバ高校から生徒が定期的に来校。授業やクラブ活動への参加を通し、それぞれの留学生との直接的な交流からも、日常の中に国際交流が存在する。この意味からも「SGH:スーパーグローバルハイスクール」でもなければ「東京グローバル10」でもない中で、実質的には都立高校で一番「グローバル」な実績を持っているのではないだろうか。

具体的には、①受け入れ、②送り出しの指導と併せてそれらの経験を活かして、③帰国後の発表に係わる学習を行った。また、①の受け入れも生徒の活動を重視し、②に対しても業者任せ(企画段階から積極的に関与)ではできない企画を指導してきた。

② 受入れに係わる教育

本校はユネスコスクール ESD アシストプロジェクトでサポートを頂いたこともあり、交流会や報告会等の企画に利用させていただけたことは大変ありがたかった。このサポート無しでは現地での交流会やその後の報告会や全国大会には参加できなかっただろう。持続可能な活動を拡大・拡散していく中でより多くの高校生に興味関心を持ってもらえるように努力した。異文化交流の伝道師的役割を内外で担っていることで日本の学校教育に貢献しているという自負が生徒にも学校側にもある。また、この流れが全国につながってほしい。教科や特定の授業の枠にとどまらずに、国際交流委員会やさまざまな有志活動等を通して指導を進める。特に、姉妹校との交流（オーストラリア・台湾）や海外の学校・生徒のとの交流は大変な数になる。

③ 送り出しに係わる学習

受け入れるだけでなく文部科学省のトビタテ留学 J A P A N への応募（昨年 2 名がネパールの子供病院でボランティア活動、スペインの語学学校での文化交流）の他、インドネシアの孤児院でのボランティア活動にのべ 9 名が参加した。またこれらの活動などを通して得た経験を学校内外でできるだけ多くの機会を設け、報告活動を実施した。また、スピノフ的になるが、インドネシアの孤児院には生徒 2 名がクリスマスイベントのボランティアに参加したり、卒業生の多くが姉妹校のフォートストリート校を再訪したり、またフォートストリート校の生徒の来訪も 10 名を超えてつながりができている。

④ 帰国後の発表に係わる学習

多面的な視点の大切さと、交流体験で得たことを「帰国報告会や課題研究発表会、広報活動」等を通して伝え、その大切さと難しさを体験した。本年は東京都の総合学科発表会でのプレゼンテーションだけでなく、神奈川県の大会にも都代表として参加し、審査員特別賞を受賞してきた。また過去に交流企画に参加した卒業生の協力（大学生の視点による報告会のプレゼン資料作成など事前指導の講師等）を得ることで、高校生でも積極的に社会（学校外の場所での活動を含む）に発信することが出来る事を学んだ。この活動の継続を学校の枠を超えて展開できることは本校の強み（芸のある生徒・卒業生の活用ができる）でもあるだろう。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

「成功経験」不足の結果として、少なからぬ生徒が自分の可能性の限界を低めに設定している。しかし、社会的な関心は高く何か貢献できないかと真剣に考えている。献身的な美しい心、無償の愛の心を持った生徒も少なくない。これは進学校の生徒の一部が計算づくの中での国際交流やボランティア活動に参加していることとは対極にあるだろう。これでは「国際ボランティア活動」のような、発展途上国や貧困問題など社会的課題のある状況に生きる人々に対して失礼であるばかりか、彼らの苦勞を利用していただろうか。校内的（都教委的にも）には人事的な配慮と、予算面や仕事の分配などの問題が山積している。ユネスコスクールとしての事業の正統性や生徒指導の正当性を教職員や保護者にも浸透させて行けるように努力をすべきであると思い、校内での情報共有に努めてきた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

総合学科というある種「特殊な環境」での教育機関ではある。特に予算面や人事的側面（新規採用者や若手、育休・産休者が多い）に課題もあり、学校側でできる事の限界もある。学校内外での情報交換会や報告会（生徒はマイプロや全国レベルの大会に複数回参加してきた）で、活動内容やその結果を共有し、本校のホームページで掲載し、様々な人の意見を取り入れることで成果もより良いものになるかと思う。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

実際のところ本校の高校受験者の増加が端的に示しているだろう。私立高校の実質無償化の逆風を受け軒並み受験者が減り、特に総合学科は悲惨な状況にあるが、本校のみ受験率が向上している。これは本校の特色と生徒保護者のニーズがマッチしているとの民間（塾）の分析もある。もちろんこれが目的ではないが、受験エリートではなく誰でも行けるグローバル人材育成のための高校としての存在が再評価されていると思われる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

杉並区内の義務制学校及び公立の筑波大付属坂戸高校が総合学科であることや、ESDの関係で校長と交流のある手島先生とは情報交換や訪問をさせていただいているが、発信の機会が少ないのが残念である。また、国連大学の研修で韓国に担当が参加させていただき全国の先生がたと情報交換を行うことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

残念ながら大学や地域からのアプローチが全くないため何もできていない。誰かいますか？むしろ紹介して頂きたい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

個人的に繋がりのある担当者や大学や学会での情報交換程度である。なお、昨年度より担当も国際理解教育学会の会員になり今年の全国大会では発表を予定している。こちらも紹介して頂きたいが、無理ならスギソウが仕掛ける？のもありかと思っている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

生徒の多くは真剣に何か努力したかったり、熱くなれる活動を求めて模索しているが、うまく見いだせない（教員側も何をしてあげたら良いかわからない）、もしくは残念なことに対応できないのが現状である。その結果として唯一の活躍の場がクラブ活動やアルバイト（もちろん家計を助けるという意味もある！）しかない生徒も少なからず存在する。そんな生徒でも「世界の為に何か貢献したい」とか、「国際交流の為に何かしたい」という生徒が少なくない中で、彼らの活動の場と、活躍の機会を提供できていると思う。また、活動を通して自己認識度を高め、自分自身に自信が持てるようになるなど、積極的な評価が得られる人間になりたいという生徒が増えている。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

特に交流相手先との活動や企画の実施、帰国後の報告会に向けての発表内容や方法の改善に向けての指導と実演に向けての練習など丁寧な指導を行い生徒への教育的な貢献に役立ったことから、今後も交流会及び報告会への参加を含めて計画をしていく。またそのクオリティーや生徒達への教育的な効果を考えると大変大きなものがある事もわかった。その成果としても多くの研究会への生徒の積極的な参加があった事や、論文・エッセイコンテスト・プレゼン大会などに参加したことで、教育的意味を管理職を含め少なからずの教職員が理解するようになった。本年は国際理解教育の全国大会（第6回高校生国際理解・国際協力に関する研究発表会、岩手県で実施）やマイプロジェクトでの発表などの結果をもたらしてくれた。欧米など安全な場所（国）での活動に参加するという「現場」を見ない「頭だけ」の活動を選択する生徒が多い中でも、敢えて過酷な条件の場をも選択し、「何チャラオリンピック」、「何とか国際ユースキャンプ」など安全圏で他人の国際貢献を机上で議論するのではなく、「市井の国際交流」を継続して行く。2018年ども3名の生徒がトビタテを受験し、全員2次面接まで到達している。また、夏にはオーストラリアの姉妹校への訪問が20名、都の補助金企画（一人8万までの補助）が通れば、インドネシアの孤児院企画の継続も可能になる。



